

## 今週のドル相場の動向 【1月10日号】

\*.....\*

新春の為替相場は、財務相の交代と菅財務相のドル高・円安への口先介入、それを打ち消しかかった鳩山総理の発言によるドル安・円高、そして週末には米雇用統計の予想外の悪化を受けてドル安・円高と、大荒れの相場となりました。

株式市場は、NY ダウ、日経平均ともに昨年来高値を更新しており、原油も金余り相場による投機的な買いで昨年来高値を更新してきました。景気回復期待で株式も原油も上げていますが、実体経済がその動きについて来ていないというギャップは、ファンダメンタルズで説明できる範囲を超えています。しかし、相場の高下は相場に聞くしかなく、当面は強い上げ基調が株式・原油相場で続くものとみられます。

今後のおおまかな動きは、12月の米雇用統計結果に表れたように、失業率が改善されない限りは米国の政策金利は上昇せず、ドル高も限定的なものに終わるといことです。つまりは、現在のドル高は昨年11月につけたドル円の84.79まで行き過ぎたドル安・円高を是正する局面である可能性が高いといえます。

また、日本はデフレに入っており、これに円高が加わるとデフレ不況と円高不況のダブルの効果で日本経済は落ち込むことになるため、ドル高・円安に持っていきたいというのが政府の本音であると思います。

為替介入は財務省の所管であることから、今後も円高方向に振れた場合は菅財務相の発言などによる為替介入の可能性があるため、円ショートは暫くおとなしい動きが続くものの、米国の金利上昇期待が遠のいたことから、一方的なドル高にも動きにくいといった手詰まり感が強まってくると考えられます。

資源国通貨は原油相場の上昇が続く限りは強く、豪ドル、NZドルなどが買われています。ただ、この場面からの買いはリスクが高いといえます。テクニカル的にも豪ドル円のストキャスティクスのSlow%Dが先週末8日に93.49をつけてきているなど、過熱感が台頭しています。

今週は、原油高が続くのかどうかを見極め、ドルの動向にも注意しながらのトレードです。現在のような相場環境では、儲けることよりも、損をしないことの方が遥かに大切と考えます。

## 今週の通貨ペアの動き



### USD/JPY (ドル円)

ドル円は、大荒れの展開で日本の要人発言や米・雇用統計で乱高下しています。米・雇用統計が予想外に悪かったことから金利引き上げ期待は遠のき、その結果、低金利のドルを売ってリスク資産を買うというドル・キャリートレードの復活も市場で取り沙汰されています。その兆しは、早くも原油や金価格の上昇に表れています。

ただ、日本政府も急激な円高に対してはその阻止に動く可能性が高く、ドル円相場の下値は切り上がる情勢が続くと考えます。



先週、4日に、2009年5月22日の安値93.85円の抵抗線で上昇から反発92円前半まで調整が入りました。上値には、200日移動平均線、下降トレンドラインが抵抗として存在するため、今後この水準を抜ききることができるか？！現在、押し目を形成して反騰態勢を整えている状況と見ています。

今週以降の見通しとして、目標値までは到達しなかったもののほぼその水準まで達していること、11月下旬からの上昇がエリオット波動の上昇5波を完成したと思われること、相場に加熱感があるなか週末に陰線で終えていること、これらの事を考えると今週は11月下旬以降の上昇の本格的な戻しが入るものと想定します。

値幅でいうと上昇幅の半値戻しと考えると89円前後が目処になると考えます。その前では91円前半が節目になると考えます。

逆に先週高値を超えると上記のシナリオが崩れしっかりと94円台まで到達すると考えますが更に上値を目指すエネルギーは少ないと想定します。

中期トレンド：下降(調整局面)

短期トレンド：上昇

**[想定レンジ] 91.7~94.9 円**